

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 斐太高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和6年10月10日(木) 14:00~16:00
- 3 開催場所 斐太高等学校 有斐会館 会議室
- 4 参加者

	会 長	折敷地 淳	前育友会長
	副会長	水口 浩美	高山市国府支所次長
	委 員	門 希和子	前育友会役員 (欠席)
		坂井 歩	高山自動車短期大学学長 (欠席)
		清水 大地	株式会社清水弥生堂専務取締役
		廣田 早苗	有斐会副会長 (欠席)
		丸山 純平	高山市議会議員・飛騨ジモト大学事務局
		丸山 泰正	育友会長 (欠席)
		山下 八恵子	育友会役員
	学 校 側	中村 浩一	校長
		深澤 千文	事務部長
		足立 宏	教頭
		駒澤 誠二	教務主任
		日比野 恭一	進路指導主事
		富田 喜友	生徒指導主事
		清水 潤	特別活動部長
		中村 香月	探究活動推進部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 若手職員との懇談

若手職員から見る本校の生徒の様子及び本校に対する地域からの要望について説明

意見1：地域を担うリーダーを育成するためには何が必要だと思うか。

⇒ 生徒自身の目的意識及び当事者意識を育成することが必要である。探究活動などで、地域の課題について考える機会を有効に活用したい。

意見2：地元に戻ってきてから地元について考えるようになったが、高校生の間に地域の課題

を考えられる機会があることは良いことである。

(2) 前期の取組及び後期の取組について

以下の資料を踏まえて説明

[資料1] 外部評価アンケート結果 (生徒、保護者等)

[資料2] 令和6年度 各分掌の指導の重点と自己評価【前期終了時】

意見1：文理選択や科目選択について、年度途中に選択決定を可能にするなど柔軟に対応できないか。

⇒ 教員数が限られている中で、クラス編成によっては選択科目が開講できないこともあるため、年度途中に選択科目の決定は難しい。

意見2：学校側の負担の面から、年度途中の文理選択や科目選択は現実的ではない。

意見3：いじめアンケートで、「いじめがある」と答えた生徒の中に、昨年度からの案件はあるか。

⇒ そのような案件はない。「いじめがある」と答えた生徒の中には、昨年度と同じ生徒もいるが、対象相手は異なっている。

意見4：昨年度の学校運営協議会で、制服の自由化についての話題が出た。他校ではポロシャツを夏季の制服としているところもあるが、本校で校則を改正する動きはないか。

⇒ 防寒着として部活動のジャージ等を着て登校をしたいといった生徒の声はあったが、既に現状の校則の中で可能なことである。生徒会で、新たな校則変更をする動きはまだない。

(3) スクール・ミッションについて

第1回学校運営協議会の意見等を集約し作成したスクール・ミッション(案)を校長が説明し協議。

意見1：「真摯に挑戦する」という表現が良い。失敗したとしても挑戦をする人材の育成、挑戦する人に共感していく学校であってほしい。

意見2：本校の存在意義や期待されている社会的役割、目指すべき学校像についての「思い」が、集約されている文となっている。

6 会議のまとめ

- ・ 第2回学校運営協議会では、若手教員が感じた生徒の様子や本校に対する地域の期待、本校の前期の取組、学校評価アンケートの結果等を学校側から説明を受け、学校の課題を共有し、生徒の将来を見据え日々の教育活動をどう進めたらよいかについて委員が互いに意見を出し合い、解決に向けての方策を探った。
- ・ 地域から期待されている学校像等について意見を交換し、学校内外に対して分かりやすく示すことができる斐太高校スクール・ミッション(案)の文面を協議することができた。